令和3年度

徳島市昭和小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

〇児童の聞く力・表現する力を育成する授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	
1学年推進員 多富　美智	校　　長:森田　範子	教　　頭:冨永　由美子
	6学年推進員:福井　啓史	5学年推進員:西條　敬子
	4学年推進員:一宮　紫苑	3学年推進員:荒井　佳代
	2学年推進員:三崎　美枝	

校長

森田　範子　印

◎次の(１)～(３)をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

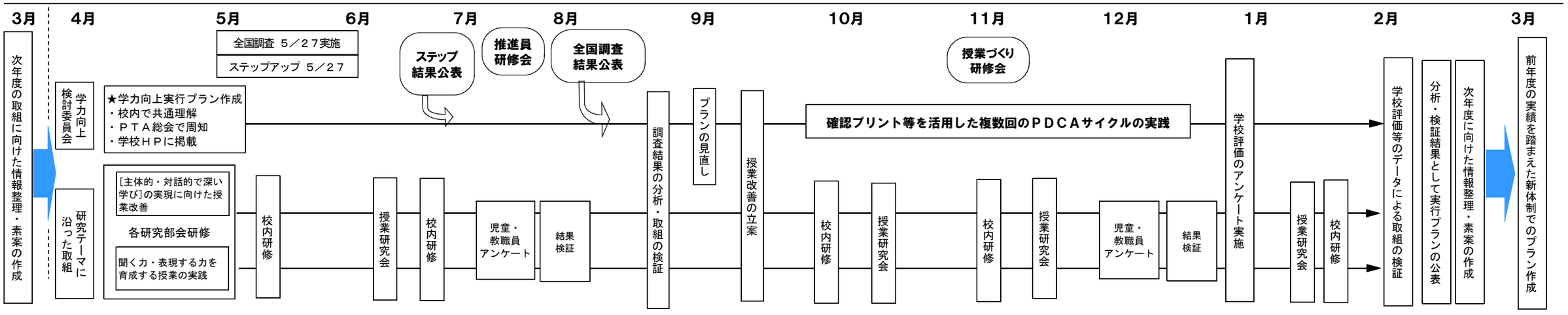
(１)知識・技能の習得

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇ドリル学習や音読練習に取り組む習慣が身に付き，基礎的・基本的な知識・技能が定着してきている児童は多い。 ●学力に二極化傾向がみられ，各学年に学力の低い児童が数名いる。一人一人の学力に応じた支援の仕方に課題がある。	・学習課題に確実に取り組み，基礎的・基本的な知識・技能を習得し，活用することができる。 ・話し方・聞き方のスキルを身に付けている。	・わかりやすい板書を工夫し，問題解決の流れにそったノートがとれるような指導を行う。 ・パワーアップタイムの実践内容を学年間で共有し，実態に合わせて活用できるようにする。 ・ ICT を活用して，一人一人の習熟の程度に応じた学習を工夫する。 ・話し方・聞き方の指導を充実させる。	パワーアップタイムの実践内容について学年で話し合う機会を設け，有効に活用していく。 ICT に触れる機会を増やし，習熟の程度に応じた学習に取り組ませる。		

(２)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇自分の考えを進んで発表したり，友達の意見を関心をもって聞いたりすることができる児童は多い。 ●相手の意図を捉えながら聞いたり，自分の考えの根拠を明確にして話したりすることはあまりできていない。	・話し手の言いたいことを考えながら聞き，目的や相手に応じて根拠を示しながら，自分の考えを適切に表現することができる。 ・友達と意見を交換することを通して，自分の考えを広げ，深めることができる。	・学習活動の中に，書く活動を積極的に取り入れ，根拠を明確にしながら自分の考えをまとめる機会を設ける。 ・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードや ICT を効果的に活用して，児童が互いに考えを交流できるように工夫する。	課題を解決するために，必要な情報を選択して自分の考えをまとめ，互いの考えを交流する活動を通して，思考を深めさせる。 その手立てとして，ノートやホワイトボード， ICT 等を活用していく。		

(３)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇学習課題に対してまじめに取り組むことができる。読書が好きな児童が多い。 ●決められた課題には取り組むが，自分から課題を見つけて進んで取り組もうとする児童は少ない。また，学習に必要なものがそろっていなかったり，宿題を忘れてきたりするなど，学習習慣がきちんと定着していない児童がいる。	・望ましい学習習慣が身に付いている。 ・進んで学習に取り組み，学ぶ楽しさやわかる・できる喜びを感じることができる。	・「学習習慣チェックシート」を活用し，学習習慣の定着を図る。 ・授業に児童の主体的な体験や活動を積極的に取り入れる。 ・学習したことを振り返る場面を設定して，解決した達成感と次への課題意識をもたせるようにし，それを基に授業改善につなげる。 ・学年に応じた自主学習の仕方を指導する。 ・朝の読書タイムの確保に努め，児童の読書習慣の定着を図るとともに，読書環境を整えて学年に応じた読書を推進していく。	学習習慣をつけるために，常にチェックシートを意識して指導する。 授業の中で，振り返る場面を確保していく。 「家庭学習の手引き」を活用して，自主学習の仕方を指導していく。 読書時間の確保に努めるとともに，読書の楽しさを実感できるような手立てを工夫する。		

令和3年度　学力向上ロードマップ